

脳神経外科

島根県立中央病院は島根県の中核病院として高度先進医療、政策医療を含め、ドクターヘリ配置の救命救急センター、総合周産期母子医療センター、がん診療地域拠点病院、その他さまざまな役目を担っています。24時間すべての救急患者は救急外来でトリアージされ、手術適応がない中枢神経疾患は神経内科医がファーストコールとなり、脳外科医として手術に集中できるとも働きやすい環境です。昨年までの3年間平均手術件数は255件(血管内治療57件を含む)で、脳動脈瘤41例(脳動脈瘤クリッピング術25例、コイル塞栓術16例)、脳腫瘍26例、脳動静脈奇形3例、内頸動脈内膜剥離術、バイパス術10例、頸動脈ステント留置術16件、神経血管減圧術3例でした。症例に偏りがなく、直達術の他、カテーテル手術、神経内視鏡手術も積極的に取り入れています。様々な手術方法を駆使し、低侵襲性にこだわることなく、患者第一で状況に応じた治療法選択を心がけています。また、専門医前の若い先生にも、顕微鏡手術やカテーテル手術など難易度が高い手術を指導医のもと習得してもらっています。2019年より学生、初期臨床研修医を対象に顕微鏡手術、血管内手術を実際に体験する「第一回島根県立中央病院脳神経外科ハンズオンセミナー」を開催しました。また、学会や論文活動の教育にも力を入れており、初期臨床研修医から全国学会で口演発表を行っています。そのために、英語論文作成もしっかりサポートします。全国の病院見学、研修制度もあり、様々な交流が可能です。

一次から三次まで様々な救急患者の初期対応と脳神経外科の診断、治療、対応まで幅広く学ぶことが可能な数少ない施設です。

